

## 第3回PCV漏えい試験検討会 議事録

1.開催日時 平成15年5月9日(金)13:30~16:30

2.場 所 (社)電気協会 4C会議室

3.参加者

委員：森中主査(関西電力),大野副主査(東京電力),小林(核燃料サイクル開発機構),鞍本(電源開発),桑原(三菱重工業),味森(東芝),久米(日立),笠(九州電力),最所(北陸電力),波多野(中部電力),玉井(北海道電力),竹内(日本原電),小谷地(発電技検) (計13名)

代理出席者：小林(中国電力・小川代理),遠藤(東北電力・河上代理) (計2名)

欠席者：古泉(四国電力), (計1名)

常時参加者：森本・西住(関西電力) (計2名)

事務局：福原,上山(日本電気協会)

4.配付資料

資料 No.3-1 第2回(H15.4.11)PCV漏えい試験検討会議事録(案)

資料 No.3-2 原子炉格納容器漏えい試験規程(JEAC4203-1994)の改定にかかわる状況について

資料 No.3-3 原子炉格納容器漏えい試験規程 改定案

資料 No.3-4 検査状況と現行規程との比較調査結果の反映状況

資料 No.3-5 原子炉格納容器漏えい試験規程(JEAC4203)における現行/改定案の比較表

資料 No.3-6 JEAC4203 改定にかかわるスケジュール(案)

5.議事内容

(1) 前回議事録(案)の確認

資料 No.3-1 に基づき、事務局より前回議事録(案)の紹介があり、一部の誤記修正の他は、コメントなく了承された。

( 2 ) JEAC4203-の改定にかかわる状況について

資料 No.3-2 ~ No.3-6 に基づき、森本氏（常時参加者）より、題記について 検討状況 主な改定内容 検査状況と現行規程との比較調査結果および反映状況 スケジュール等が紹介された。主な質疑は、以下のとおり。

Q . 1.4 B 種試験 試験頻度 エアロック漏えい試験について、運転上の制限の対象となるものとは、BWR プラント起動時の原子炉格納容器内ラストエントリーは該当しないのか。

A . 該当しない。

C . 2.2 基準容器法標準方案 表 2,21・表 2,22 の成績表（様式）を規程本文に掲示しているが、必要性があるのか。他の試験については成績表（様式）の掲示はなく、整合がとれていない。

A . 成績表（様式）の掲示は、不必要なため削除する。

C . 2.原子炉格納容器全体漏えい率試験（A 種試験）標準方案 2.1.3.2 測定装置の配置の所で、試験期間中の条件変化に対する要因排除の観点から、「試験期間中における原子炉格納容器内雰囲気条件（温度・湿度）変化が試験結果に影響を与えることから、外乱を極力排除するよう努めなければならない。」との記載がなされているが、具体的な事例を解説に明記すべき。例えば、残留熱除去系（RHR）運転による温度一定化に努める等。

A . 拝承。

C . 規程本文全般について、規制条文の基本事項（原則事項）と例外事項が同一文に入っており分かりづらい。例外事項は、箇条書きにする等、修正を図るべき。

A . 拝承。

C . 本文に使用されている数値根拠を明確にしておくことが必要。

C . 数値根拠となる「最近の技術知見」等は、解説編或いは参考資料編として準備すべき。

- ・ A 種から B 種及び C 種試験への移行
- ・ B 種及び C 種試験の判定基準
- ・ ピーク圧力試験から低圧試験への移行 等

A . 拝承。引き続き検討する。

- Q . 2.2 基準容器法標準方案 2.2.4.6 計器の校正及び試験 基準容器漏えい試験において、基準容器の分散分析方法に「24 時間以上」とあるが、試験開始時刻の時間帯はどこなのか。解釈違いを生じかねない表現となっている。
- A . 拝承。誤解を生じないよう適切な表現に修正する。

最後に森中主査より、本規程案の上程スケジュールと上程時の準備事項が再周知された。

#### 上程スケジュール

- ・ 構造分科会（5 月 15 日開催）へ中間報告。
- ・ 原子力規格委員会（5 月 23 日開催）へ中間報告。
- ・ 原子力規格委員会（9 月開催）へ上程審議。

#### 準備事項

- ・ 規程本文全般について、原則事項 と例外事項を区分けし適切な表現化を図る。
- ・ 本文に使用されている数値根拠集の準備。
- ・ 定検要領書を再精査し、追加項目があれば反映する。

#### ( 3 ) その他

次回開催は、5 月 1 5 日開催の第 6 回構造分科会及び5 月 2 3 日開催の第 10 回原子力規格委員会での審議結果を踏まえて、必要に応じ開催する。

以 上